

岩泉線の廃止について

岩泉線については、2012年3月30日に『鉄道による復旧を断念し、バスにより地域の交通を確保する』という方針を表明し、これまで、沿線の方々に復旧を断念するに至った経緯等について丁寧に説明してまいりました。

廃止後の代替輸送等については、2013年9月5日に岩手県及び沿線自治体である宮古市、岩泉町に改めて提案を行い、相互に理解を深めながら、協議を行ってまいりました。

その結果、本日を以て協議が終了し、岩泉線の廃止及びそれに伴う代替輸送等について、関係者間で合意に至りましたのでお知らせ致します。

なお、「廃止届」につきましては、明日以降、速やかに国土交通大臣に提出致します。

2013年11月7日

東日本旅客鉄道株式会社

(合意内容)

【 代替輸送について 】

1. 当社は、ＪＲ岩泉線（茂市駅～岩泉駅間）の廃止に伴う代替バスの運行確保に責任を持つ。
2. 代替バスの運行は地域密着・地元雇用促進の観点から地元バス事業者が行う。
3. 代替バスの運行区間は、現行の岩泉線（茂市駅～岩泉駅間）の区間を基本とする。
4. 代替バスのサービス内容（運行本数、停留所、運賃等）に関しては、現行鉄道水準を基本に関係者と協議を進める。
 - ・運行本数は、現行鉄道水準（１日４往復）を基本とする。
 - ・停留所は現行の岩泉線各駅を基本に設置することとし、大川集落付近及び岩泉町市街地（岩泉高校等）については路線延伸を行う。
 - ・茂市駅～岩泉駅間の運賃は、現行鉄道水準とする。
 - ・茂市駅におけるＪＲ山田線との乗継運賃は打ち切り計算とするが、通学定期運賃については緩和措置として３年間の差額補助を行う。

【 地元貢献について 】

5. 岩泉線廃止後の鉄道施設・用地については、押角トンネル（約 3km）を岩手県へ、茂市駅～岩手和井内駅間（約 10km）を宮古市へ、浅内駅～岩泉駅間（約 7.4km）を岩泉町へ無償譲渡する。また、当社は岩手県が計画する一般国道 340 号押角峠の道路改良の事業に要する費用の一部について資金提供を行う。
6. 岩泉線沿線の地域産業や観光の振興に対し、引き続き協力し、地域の発展に貢献する。

【 今後の進め方 】

7. 当社は、鉄道事業法に定める「廃止届」を国土交通大臣に提出する。

沿線の方々への説明及び協議の経過

2012年3月30日 『鉄道による復旧を断念し、バスにより地域の交通を確保する』という方針を表明

〈沿線の方々への説明〉

- 2012年7月2日 宮古地区鉄道利用促進協議会
周辺自治体(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)の首長及び議長等(約30名)
- 2012年7月4日 岩泉町議会全員協議会
岩泉町長、岩泉町議会議員及び町役場職員等(約50名)
- 2012年7月25日 岩泉線存続強化促進期成同盟会
岩泉町長、岩泉町議会議員及び町役場職員、町内会役員等(約70名)
- 2012年10月11日 新里地域協議会
民生委員、消防団、PTA役員等(約10名)

2013年9月5日 代替輸送等について岩手県、宮古市、岩泉町に改めて提案

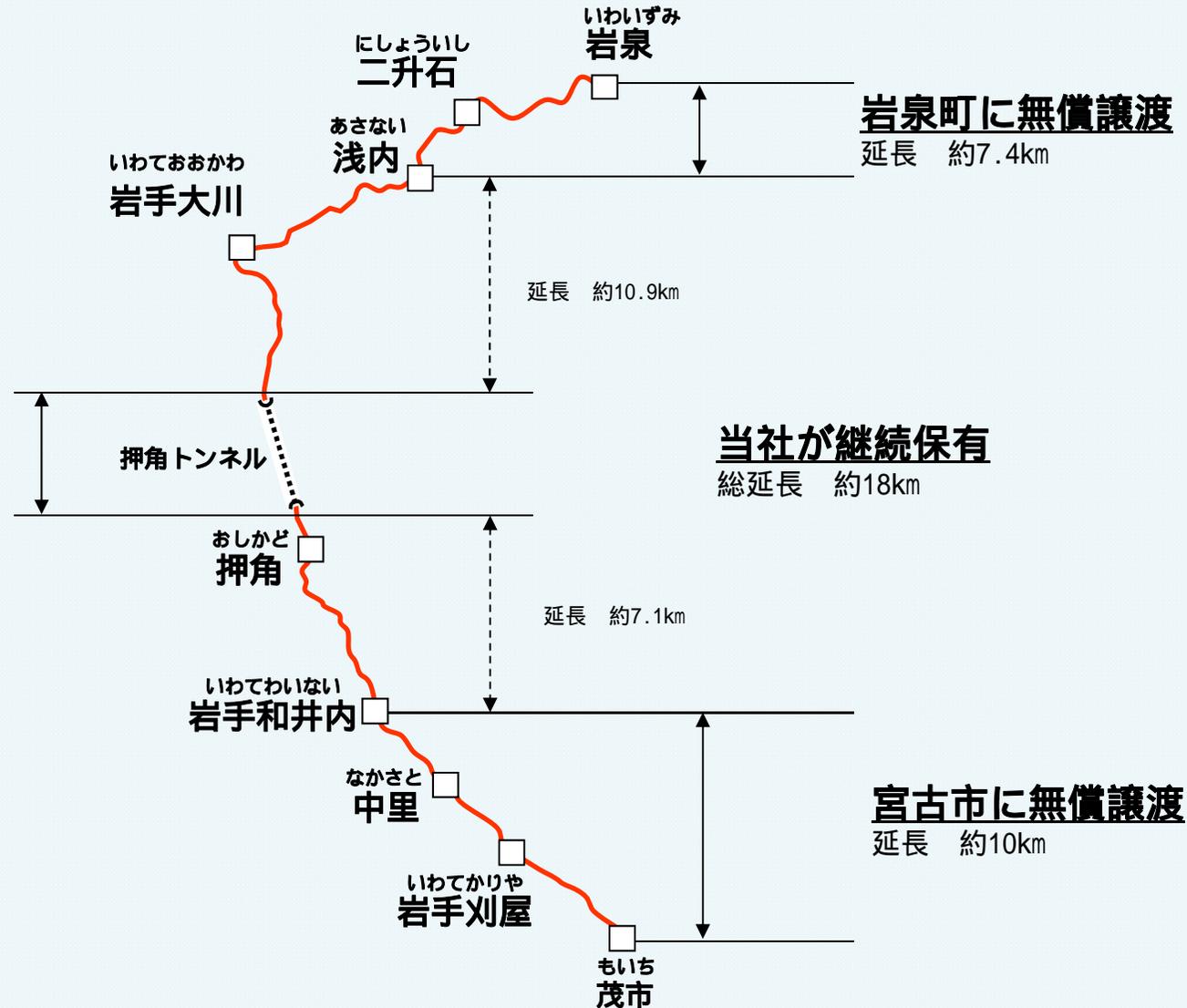
〈公式協議〉

- 2013年9月20日 第1回公式協議(岩手県、宮古市、岩泉町、JR東日本)
- 2013年10月11日 第2回公式協議(岩手県、宮古市、岩泉町、JR東日本)
- 2013年10月25日 第3回公式協議(岩手県、宮古市、岩泉町、JR東日本)
- 2013年11月7日 最終合意(岩手県、宮古市、岩泉町、JR東日本)

鉄道用地・施設の譲渡について

岩泉線茂市～岩泉
総延長=38.4km

岩手県に無償譲渡
押角トンネル（約3km）



(参考) 代行バスのご利用状況 (2013年10月1日～10月31日)

上り		2便	4便	6便	8便
岩 泉	↓		7:45	17:01	19:15
岩手和井内		6:35	8:44	18:00	20:14
茂 市		6:55	9:04	18:20	20:34
宮 古		=	9:34	=	21:04

下り		1便	3便	5便	7便
岩 泉	↑	7:39	8:20	16:59	19:55
岩手和井内		6:40	7:21	16:00	18:56
茂 市		6:20	7:01	15:40	18:36
宮 古		..		15:10	

2013年3月16日改正 (記載は改正後のダイヤ)

平均乗車人数(人)

平 日	7.9	11.9	1.2	7.7
土休日	3.4	7.8	2.0	1.9

平 日	9.7	0.6	7.3	4.9
土休日	3.0	1.1	6.1	3.6

全便平均

6.4
3.6

ご利用延べ人数を集計

区間別乗車人数 (1日あたり)
(人)

